

## 【1】 高等部の基本的な考え方と教育課程の編成

### [1] 高等部のめざす教育

卒業後の社会の中で、生徒一人ひとりが自分の力や個性を發揮し、周りの人との関わりを持ちながら豊かな、充実した人生を歩んでほしい。そうした将来像をえがきながら高等部では、教育目標を『すすんで生き生きと学ぶ気力にあふれた子』と定め、指導の重点を○生活や作業に必要な基礎的な知識・技能を習得し、より豊かな人間関係を確立する中で労働にかかわる力を養う。○自らの健康を保持・増進し、障害の克服に励み、たくましく生きぬく力を身につけさせる。と設定して、日々の指導にあたっている。

障害や発達段階が一人ひとり異なる生徒たちの、社会参加の姿はさまざまであり、違いがあるのは当然である。しかし、どのような社会的自立であろうとも、少しでも自分の力で生活することを自ら求め、それを自分自身の生きる目標や張りにして、生きていってほしい。そうした人間づくりをめざし、高等部教育では、考える力、働く力、社会生活をする力等、いわゆる生活するための実践的な力や態度を少しでも高め、たくましく豊かな人生の実現を図りたいと考えた。

高等部の生徒にとって大切なもう一つの側面は、自己認識を深めるという点である。障害を含め自分自身を正しく理解することは、どの発達段階にある生徒にも大切であるが、特に青年期に位置し、社会的自立を目前にしている高等部の生徒にとっては、進路選択の上からも、さらに卒業後、自分自身の特性を生かしながら、生活の主体者となって生きていく意欲につなげるためにも、とても重要である。障害のある自分自身を前向きにとらえ可能性や夢に向かってチャレンジする躍動感を、少しでも高めていきたい。

### [2] 研究テーマの基本的な考え方

学習の中に自分の意思が生かされ、それに基づいた活動場面が設定されると、学ぶ喜びや活動しきる充実感が味わえる。その学習で味わった喜びや充実感は、いろいろな活動に進んで取り組もうとする次の意欲を生む。

高等部の生徒は、指示を待って行動する傾向が強く、設定された学習場面以外のところでは、自分でやりたいことを見つけて自主的に取り組んだり、夢中で楽しいことに没頭するといった意欲的な姿を、これまであまり見せなかった。このことは、多くの生徒が自分自身を見つめようとし始める、いわゆる青年期の段階に位置していることの現れである一方、生活に必要な生きて働く力をつけさせたいと願う余りに、教師主導になりがちだった指導姿勢の反映ともとらえられる。

自分の内面に問いかけ、自己客観視に向かう発達段階に位置する高等部の生徒である。個々の人格を尊重しながら発達に応じた支援の方法を追求し、青年期の人格形成に資するとともに、生徒自身が生涯にわたる生活を、楽しく豊かになものにしていこうとする意欲的な姿勢を育てたい。このように考えると「生活を楽しむ」という視点での実践は、高等部教育に大きな意義を持つものである。

### [3] 研究テーマに視点をあてた教育課程の編成

高等部では従来、将来の勤労生活を意識し、職業と生活一般を中心に据えた教育課程を編成してきた。「生活を楽しむ」という研究テーマを意図し、昨年度より新しく選択学習の時間を設定するなど、週時程表を表-1のように組んでいる。

表-1 高等部週時程表

| 時<br>程 | 曜<br>日 | 月          | 火         | 水    | 木    | 金        | 土           |
|--------|--------|------------|-----------|------|------|----------|-------------|
| 1      |        | ホーム<br>ルーム | 課題別トレーニング |      |      |          | 生活一般        |
| 2      |        | 生活一般       | 職業        | 生活一般 | 生活一般 | 職業       | 生活一般        |
| 3      |        | 生活一般       | 職業        | 生活一般 | 生活一般 | 職業       | 生活一般        |
| 4      |        | 生活一般       | 職業        | 生活一般 | 生活一般 | 職業       | 日常生活<br>の指導 |
| 5      |        | 体B<br>音A   | クラブ       | 生活一般 | 選択学習 | 体A<br>音B |             |
| 6      |        | 体A<br>音B   | 委員会       |      | 選択学習 | 体B<br>音A |             |

① 生活一般は領域・教科を統合した指導の形態で、自己認識、性教育、進路指導の3つの内容を中心として指導する。自分づくりに直接アプローチすると共に、生活者として課題解決の力をつけることをねらっている。校外での体験学習や、調理等の実習にじっくり取り組めるよう3時間連続で設定している。学級単位で指導するが、必要に応じてグルーピングを図り、個別の指導も保障する。3年間を見通した指導内容の系統性も大切にしている。

② 職業科では基礎的な技能の習得とともに働く習慣や態度を育て、将来の職業生活に生きて働く力を高めることを目標にしている。コース選択、学習の目標設定、自己評価等、生徒の思いをできるだけ学習に生かし、主体的な取り組みとなるよう工夫し

ている。この学習の応用発展として現場実習・校内職業実習も計画し、ダイナミックに自分の力を発揮する充実感を味わうとともに、自分自身の取り組みをいろいろな角度から見直し、新たな課題を発見する学習の場として大切にしている。

③ 選択学習は、生徒が自分の思いを生かして活動しきる喜びや、新しい技能を習得する充実感を得ることを意図して設定した学習の形態で、木工芸、手工芸、運動、パソコン・ワープロ、茶道の5コースを設けている。コース選択から学習計画の立案、製作・活動まで、教師は生徒の思いにできるだけ寄り添い、学習活動を支援していく。この学習で得た力や喜びが生徒の特技や趣味に結びつき、将来の生活を、楽しく豊かにする手がかりになればという教師の願いも込められている。

④ ホームルームでは、クラスの仲間がお互いの存在を認め合い、協力しながら行事を計画・運営し、楽しい思い出づくりをする。また必要によっては、目の前に起こった共通の課題の解決策をみんなで考える場でもある。担任は共に活動を楽しむ仲間として、また生徒たちより人生経験の豊かな先輩としてアドバイスしながら、学習に参加している。

「生活を楽しむ子」を意識した指導は、教育課程全体の中で行っているが、特に上記の4つの教科・領域、指導の形態を、主な研究領域として実践してきた。以下その取り組みの経過を報告し、成果や課題を明確にして本研究の一応のまとめとするとともに、今後の実践に生かしていきたい。

(出協典子)